

令和4年度 津田中学校 学校評価

	自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
	重点目標	活動計画	評価指標	評価	学校関係者の意見		
学習指導	<p>1. 生徒の基礎的な知識・技能の定着と、学ぶ意欲の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実践する。</p> <p>2. 生徒の学習習慣の確立と学習方法の習得を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p>	<p>1. 学びへの興味・関心をもたせるためGIGAスクール事業のタブレットなどのICT活用に積極的に取り組む。また、生徒同士の協働の場面をつくるなどアクティブラーニングの手法を取り入れる。</p> <p>2. 自主学習ノートの使い方の指導を行ったり、持ち帰ったタブレットを有効に活用し家庭学習の方法や内容を提示したりすることで、学習方法及び学習習慣の定着を図る。</p>	<p>1-①. 「ICTを利用した授業が行われている。」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>1-②. 「授業の中で疑問や意見を率直に出せる場が設定されている。」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>2-①. 「家庭学習が習慣化している。」と答える生徒・保護者が85%以上となる。</p> <p>2-②. 「家庭学習の方法を身に付けている。」と答える生徒が80%以上となる。</p>	<p>1-①. 「先生はICTを活用した授業を行っている。」と答えた生徒は73.4%であった。</p> <p>1-②. 「授業の中で疑問や意見を率直に出せる場が設定されている。」と答えた生徒が84.0%で目標を上回った。</p> <p>2-①. 生徒76.5%, 保護者63.4%となり、目標を達成できなかった。</p> <p>2-②. 67.8%であり、目標を達成できなかった。</p>	B	<p>○タブレットの不具合やネットワークの不備が多いようである。クラス全員が同じ環境でタブレットを使うことができるように、整備を要望してほしい。</p> <p>○協働的な学びにタブレットの利用が期待できるので、活用の仕方を模索し有効にタブレットを活用してほしい。</p>	<p>○授業におけるICTの活用という点において、プロジェクトやデジタル教科書を利用した授業を実践している教職員が多い。しかし、1人1台のタブレットの活用や教職員間でのICT機器の利用頻度の差に課題があった。授業での効果的なタブレット活用方法や、家庭学習の習慣化と学習方法の定着のための家庭におけるタブレット活用方法などに関する校内研修等を通して、全教職員の意識改革を進めていきたい。</p>
生徒指導	<p>1. 自発的なあいさつの定着を図る。</p> <p>2. いじめの予防・早期発見、生徒理解を深め、相談体制を確立する。</p>	<p>1. 教職員や生徒会役員によるあいさつ運動を実践する。</p> <p>2. 学校生活アンケートやチェックシートの活用、スクールカウンセラーとの連携により生徒理解を深め、相談しやすい組織・環境の整備に努める。</p>	<p>1. 「自ら進んで、あいさつがきちんとできている。」と答える生徒・保護者・教員が80%以上となる。</p> <p>2. いじめ予防の啓発と相談しやすい体制・組織が確立できる。スクールカウンセラーとの連携を密にし、情報を共有し、事前予防ができる。</p>	<p>1. 生徒・保護者とも80%を超えたが、教職員は66.6%で学年間での意識の差がある。今後もあいさつを奨励していく必要がある。</p> <p>2. 「教職員に相談ができる。」と答えた生徒は63.5%と少なく、教職員の生徒理解をより深める必要がある。また、保護者との連絡を密にし、情報収集・共通理解に努めたい。</p>	B	<p>○校外であいさつや声を掛けることは、不審者に思われて難しい。校内での積極的なあいさつを期待する。</p> <p>○地域として不登校生徒に声掛けをしたのだが、それだけでは問題の解決につながらないので、今後も関係機関と連携して取り組んでほしい。</p>	<p>○今後も生徒会と教職員と一緒にあいさつ運動を積極的に行うとともに、部活動や学校行事等を通してあいさつの重要性を伝えていく。</p> <p>○生活アンケートや日々の観察からだけでなく、教職員間・保護者との情報共有や共通理解を通して、生徒に寄り添った生徒指導を心がけていく。</p>
道徳・人権教育	<p>1. 校訓の精神を基盤として、自他の生命を尊重し、感謝や思いやりのある豊かな心を大切に育てる生徒を育成する。</p> <p>2. 自他の人権を尊重し、民主的な社会を築く実践力を身に付けた生徒を育てる。</p>	<p>1. 道徳性や道徳実践力を育むため、22項目の内容を計画的に配置する。また、生徒が意欲的に活動できるように、授業形態の工夫や補助教具の活用を図る。</p> <p>2. 「津田中生みんなが幸せになる」ために、自他を尊重しようとする態度を育成する人権学習を進める。</p>	<p>1-①. 生活アンケートのあいさつ・感謝の言葉を伝える項目が90%以上となる。</p> <p>1-②. 清掃や交通マナーなど「集団や社会の一員として」の内容で85%以上となる。</p> <p>2. 自他の人権を尊重しようとする意欲をもち、「実践できた」と答える生徒が90%以上となる。</p>	<p>1-①. 生活アンケートの「あいさつ」は87.4%、「感謝の言葉を伝える」は96.9%で概ね目標を達成できた。</p> <p>1-②. 清掃や交通マナーなど「集団や社会の一員として」の内容は89%以上で、昨年度よりも意識が高くなった。</p> <p>2. 自他の人権を尊重しようとする意欲をもち「実践できた」生徒が96.2%で、目標を上回ることができた。</p>	B	<p>○「特別な教科 道徳」となってから、道徳の授業が充実していることが良いことだと思う。</p> <p>○新型コロナウイルスに対する差別や偏見が見られないことを踏まえたら、評価はもっと高くても良いのではないかな。</p>	<p>○道徳の授業を通して、あいさつの徹底や思いやる言葉かけが実践できるよう道徳性を養う。ローテーション道徳を継続し、学年全体で取り組む。また、授業形態や補助教具・教材の共有を行い、効果的な授業づくりを目指す。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に対する偏見や差別を生まない指導の徹底を図る。継続的に全校生徒や保護者への啓発を進める。</p>
特別支援教育	<p>1. 通常学級に在籍する配慮を要する生徒への理解を深め、支援を実施し、改善を図る。</p> <p>2. 支援学級に在籍する生徒に対して、指導計画をもとに計画的な指導を行う。</p> <p>3. 教職員の特別支援教育に関する理解を深める。</p>	<p>1. 支援の在り方と、保護者や他機関との連携方法を工夫する。</p> <p>2. 担当教員間で情報を共有し、学期ごとに評価をして改善を図る。</p> <p>3. 校内支援委員会等を活用して支援体制を充実させ、教員の理解を深める。</p>	<p>1. 「ユニバーサルデザインを心がけている。」と答える教員が75%以上となる。れん面談を活用し、保護者との連携を図る。</p> <p>2. 指導計画をもとに保護者面談を行い、保護者との連携に活用する。</p> <p>3. 校内支援委員会を年間4回以上開催し、校内支援の体制を整える。</p>	<p>1. 2. 「ユニバーサルデザインとポジティブな行動支援の考え方を参考にし対応を工夫している。」「個別の目標を念頭において指導と配慮を工夫している。」と答える教職員が、ともに87.5%であった。指導計画をもとに課題を共有し、保護者との連携を進めることができた。</p> <p>3. 職員会を活用して、校内支援委員会を6回開催した。校内の支援体制を整え、情報共有を図ることができた。</p>	B	<p>○通常学級に在籍している特別な支援を必要とする生徒に対して、よりきめ細かい指導を期待したい。</p> <p>○生徒の特性の多様化に関連して保護者の要望も多様化しているようなので、関係機関と連携するなど、よりよい指導を期待したい。</p>	<p>○全ての生徒にわかりやすいよう、教育のユニバーサルデザインやポジティブな行動支援などの、第1層支援を充実させていく。</p> <p>○生徒の特性や状況などを、学年・学校として共有していく。</p> <p>○教職員・保護者・SC・医療機関等の連携を密にし、様々な要望や状況への対応力を高める。</p>
健康・安全指導	<p>1. 自分の心身の発達に関心を持ち、健康の保持増進に努める。</p> <p>2. 校内の危険箇所の発見・修理により安全な学習環境を保持する。</p>	<p>1. 健康力アップ作戦を基に、生徒自らが健康・生活習慣改善のための課題を考え目標を定めて取り組む。</p> <p>2. 施設・設備の定期点検を行い、危険箇所の早期発見、早期修理に努める。</p>	<p>1. 「心身の健康に気をつけた生活が送れている。」と答える生徒が90%以上となる。</p> <p>2. 「校内の危険箇所をすぐに修理されている。」と答える生徒・教員が90%以上となる。</p>	<p>1. 「心身の健康や感染症対策に気をつけた生活が送れている。」と答える生徒は、87.8%となり、昨年度より5.4ポイント減少した。</p> <p>2. 目標値の90%以上には達しなかった。本校の施設・設備が非常に古いため、破損箇所等が多く、修正が追いついていないためと考えられる。</p>	B	<p>○朝食の提供を行っている学校もあるが、本校は健康力アップ作戦の成果もあり、朝食をとってから登校する生徒が多いようだ。引き続き指導をしてほしい。</p> <p>○危険箇所の修繕費は多額になり、要望を通すことは難しいが、要望を続けて危険であることを教育委員会に伝えてほしい。</p>	<p>○月1回の健康力アップ作戦を継続し、生徒自らが健康・生活習慣改善のための課題を考え目標を定めて取り組む意欲を育てていきたい。</p> <p>○特に生徒が普段生活する範囲の箇所の修繕をたくさん行っていき、目に見えるような修繕箇所を増やしていきたい。</p>
地域ととも学校づくり	<p>1. 保護者や地域の方々に、学校経営の方針や教育活動の状況について説明し、連携・協働体制を確立する。</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、学校・家庭・地域が連携できるような工夫をする。</p>	<p>1. 積極的に学校開放を行い、教育活動の様子を見てもらったり、学校ホームページや学年だより・マチコミメールによる情報発信を積極的に行ったりする。</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら地域の人材を活用し、PTAや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりに努める。</p>	<p>1. ホームページの更新やオープンスクールの実施により、「学校の様子がわかる。」と答える保護者が80%以上となる。</p> <p>2. 「コロナ禍において学校・家庭・地域が連携できるよう工夫している。」と答える保護者・教員が70%以上となる。</p>	<p>1. 目標値80%に達することができなかった。新型コロナウイルスの感染状況が影響したと考えられる。更なる情報発信の充実が必要である。</p> <p>2. 目標値70%以上に達した。コロナ禍であっても、学校運営協議会の発足をきっかけにして、地域とともにある学校づくりに努めた成果であると考えられる。</p>	B	<p>○社会福祉協議会と連携をした年賀状の配達は、独居老人に好評であった。中学生のできる範囲で地域と連携して、活動に取り組んでほしい。</p> <p>○水中ドローンの活動は、生徒にとって新鮮かつ地域の問題を考えるきっかけになった。来年度も、体験活動に協力したい。</p>	<p>○次年度も、学校運営協議会制度を活用し、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら地域の方々と連携し、水中ドローン体験などの学校教育の充実を図るとともに、地域とともにある学校づくりに一層取り組んでいきたい。</p>